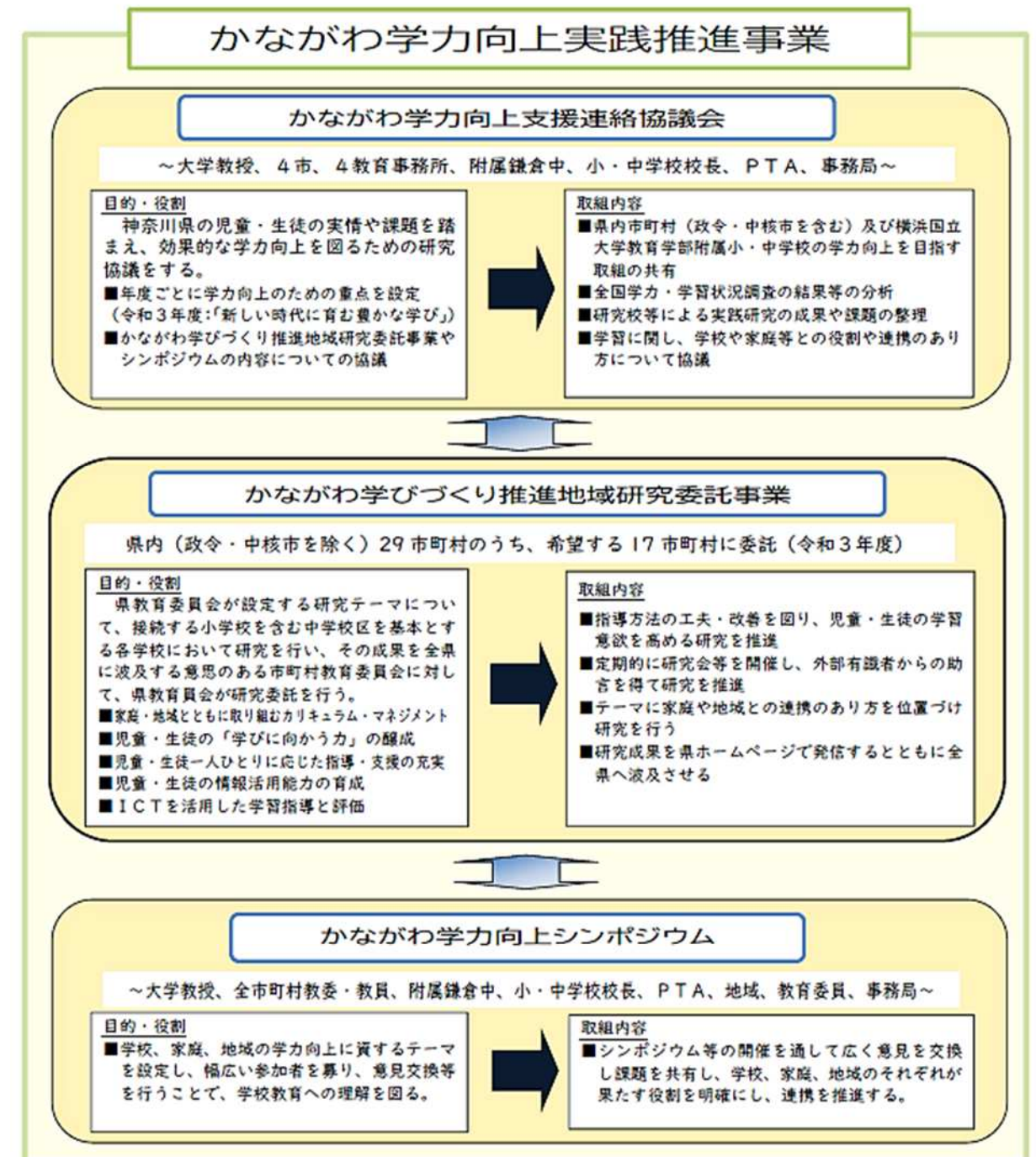




研究委託地域	研究テーマ
鎌倉市	主体的・対話的で深い学びのある授業づくり ～深く考え、判断し、自ら進んで学習する生徒の育成を目指して～
藤沢市	子どもたちが「ともに学び、ともに育つ場」をつくり、意欲的に学習に取り組む、知識・技能の習得と、思考力、判断力、表現力等の育成ができるよう、それぞれの学校や地域の実態に応じて学校が取り組んでいけるようすすめていく。
茅ヶ崎市	未来を拓く力をはぐくむ学校教育の充実 ～学びの質を高める学校教育の充実～
三浦市	郷土三浦に誇りをもち、これからの社会をたくましく生き抜く人材の育成
葉山町	9年間を見通した育てたい葉山の子どもの像の実現に向けて
寒川町	確かな学力を身につける教育の推進 ～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～
海老名市	9年間を通じて確かな学力や豊かな心を育む、主体的な学びの実現に向けて
愛川町	自立・協働 ～たくましく生きぬく力を持つ子～
清川村	幼・小・中の12年間を見通した確かな学力と豊かな心の育成 ～輝き・愛着・誇りを持って未来を支える「清川っ子」の育成を目指して～
秦野市	児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成
大磯町	児童一人ひとりの主体的・対話的で深い学びを目指して～「大磯学」から始める教育デザインの構築
二宮町	児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成
南足柄市	夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子どもの育成 ～「確かな学力」の向上をめざした指導の工夫・改善～
大井町	「質の高い授業の創造」 ～一人ひとりの主体性と道徳性の育成をめざして 児童・生徒の「学びに向かう力」を育む授業づくり～
松田町	質の高い学びの創造 ～自立・創造・共生の視点から～
山北町	主体的な学びをととした確かな学力の向上をめざして
真鶴町	伝え合い・学び合いを通して育む確かな学びと豊かな心

# かながわの 学びづくり プラン

神奈川県教育委員会では、「かながわ学力向上実践推進事業」を平成20年度から実施しています。この事業は、平成19年4月に始まった全国学力・学習状況調査の調査結果等の分析をとおし、今後の指導の改善につなげることを目的とした有識者を中心とする「神奈川県検証改善委員会」の報告をもとに始まりました。本事業では、下図のように、3つの取組(かながわ学力向上支援連絡協議会、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業、かながわ学力向上シンポジウム)を連動させて実践研究を進め、その成果を全県へ周知しています。



各地域の研究の概要を、令和3年度かながわ学力向上シンポジウム(オンライン)で紹介しました。

神奈川県ホームページにも掲載しています。[かながわ 学びづくり推進地域](#)で検索。



令和4年度は、17市町村(鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、三浦市、葉山町、寒川町、綾瀬市、愛川町、清川村、秦野市、大磯町、二宮町、南足柄市、大井町、松田町、山北町、真鶴町)を、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業の研究委託推進地域としています。

また、令和4年度かながわ学力向上シンポジウムは、令和5年1月22日(日)午前中に開催する予定です。

問合せ先:神奈川県教育委員会 子ども教育支援課 教育指導グループ  
電話:045-210-8217(直通)

※ 本紙は、令和4年度の各学校・家庭・地域での「かながわの学び」の充実につなげていただくよう、令和3年度の「かながわ学力向上実践推進事業」を紹介するものです。各ホームページも併せてご覧ください。



(案内チラシ)

県教育委員会では、学校教育、家庭教育、地域の教育力の向上に資するため、それぞれの役割や協働した環境づくり等について広く意見交換をするシンポジウムを毎年開催しています。

令和3年度は「新しい時代に育む豊かな学び」をテーマに、令和2年度に引き続き休日にオンラインで開催しました。当日は学校関係者や保護者だけではなく小・中学生、大学生・大学院生も参加し、それぞれの立場で、「豊かな学び」や「かながわの学びづくり」について語り合いました。

神奈川県ホームページも御覧ください。

かながわ 学力向上 で検索。



「令和3年度かながわ学力向上シンポジウム」の概要 (子ども教育支援課まとめ)

前半「子どもたちにとって豊かな学びとは…」

報告① 海老名市立杉本小学校長 小川 百合子 先生

単元の流れを見通して学年で意見を出し合い、一つ一つの授業の流れについて話し合い、「子どもたちの様子を思い浮かべながら授業を考え、授業改善に取り組むこと」「全員が授業に参加し自分の考えを述べられること」という二点を大切にしながら校内研究に取り組んだ。

報告② 横浜市立万騎が原中学校長 中村 雅一 先生

自分の人生に役立つことを知ったときや自分自身をうまく表現できたとき、自分が社会のコミュニティの一部を担っていると感じたときなど、感動や発見を生む体験をしたときに子どもの学びが起きると考えている。

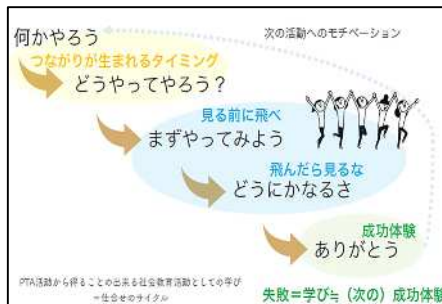
報告③ 横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校 戸沼 雄介 先生

各教科や総合的な学習の時間、学校行事など、あらゆる場面で教員と子どもが目的地を共有するとともに、家庭・地域ともつながりながら、子どもが共に学びを作り上げること、教員がそれを支援する場を大切にしてきた。子どもが自らを主人公として、自分事に問題を捉えて解決できる場を作ることを大事に校内研究に取り組んだ。



報告④ 神奈川県PTA協議会会長 大木 健一 さん

PTAの活動では、課題意識を共有、解決策の検討を通して保護者同士の繋がりが強くなっていく。様々な意見を出し合って、全体としてベストなやり方は何かをみんなで考えていくことが、思いを一つにする過程であり、そのような思いでやり遂げた活動は、必ず成功体験という形で自分に多くの学びとして残ると考えている。この学びの過程は、子どもたちにも体験してほしいと思うし、そういった学びを得ている親を、子どもは必ず見ていると思っている。



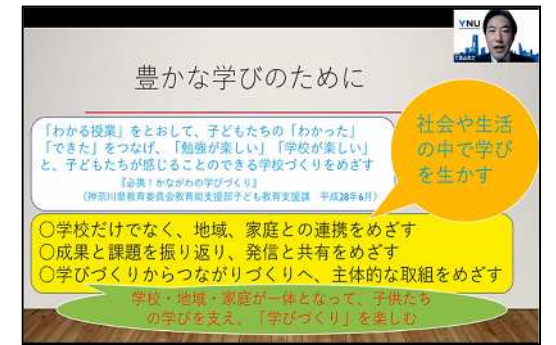
前半の全体共有より

- ・みんなと意見を共有したり、いろいろな意見を聞いて自分の考えを深めるなど、このような環境を先生が作ってくれることが豊かな学びに繋がると思う。(小学生)
- ・臨時休業中に学校がオンライン学習を進めてくれた。学びを止めないために努力する先生の姿は子どもたちに良い影響を与えている。学校がたくさん学びの機会を与えてくれることが、まさに豊かな学びに繋がっている。(保護者)

後半「子どもたちにとって豊かな学びをつくる学校、家庭、地域の役割とは…」

基調講演①「豊かな学びをめざすかながわの「学び」づくり」  
横浜国立大学教育学部教授 青山 浩之 先生

豊かな学びは、学習の中だけで完結するのではなく、社会や生活の中で生かしてはじめて成り立つものである。したがって、社会と連携するのが豊かな学びづくりの第一条件になる。みんなが一体となって子どもたちの学びを支えていく、そういう在り方を神奈川県は目指してきている。



基調講演②「子どもたちにとって豊かな学びをつくる学校、家庭の役割」

横浜国立大学教育学部教授 池田 敏和 先生

何事にも能動的に、積極的に関わろうとする力こそ子どもが本来持っている素晴らしい力であり、これを私たちは教育の中で温め続ける必要がある。

私たちは教育を受けていくと、いつの間にか暗黙の価値観を共有しているが、その暗黙の価値観は本当にそれでいいのか、それは本当に豊かな学びなのか、そのような問いかけをしたい。



後半の全体共有より

苦手意識があり、強制されるものでは、どうしても豊かな学びとは離れてしまうと思う。家庭や学校で自ら進んで自主的に学習に取り組めるような環境を作ることが、学校・家庭・地域の役割なのではないかと思う。(中学生)

コメンテーターによるまとめ ①青山教授

学校は、どのような資質・能力の育成を目指しているのか、豊かな学びを展開するためにどのような学び方が必要なのかを家庭と共有し、学校の学びが地域の課題として、そして、地域の課題が学校の課題になっていくような、ダイナミックな往還をしていくとよいと改めて感じた。

コメンテーターによるまとめ ②池田教授

豊かな学びは答えのない問いであり、小・中学生も含め、いろいろな立場から大いに語ることができてとてもよかった。豊かな学びというのは、シンポジウムに参加されたみなさん、豊かな学びについて語りたと思われた方々がここに参加し、仲間がいるのだと感じた。ぜひこの繋がりを大切に、語り続けられる仲間でありたいと思う。